SUBARU 健康保険組合太田記念病院

麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献します。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学です．麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストであす。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担います。

2. 太田記念病院麻酔科専門研修プログラムの概要と特徴

① 北関東有数の急性期拠点での圧倒的な臨床経験

当プログラムの基幹施設である太田記念病院は、群馬県太田・館林医療圏の基幹病院です。栃木県南部や埼玉県北部までカバーする広域救急の拠点であり、北関東有数の急性期病院として、豊富かつ多彩な症例を経験できる環境が整っています。さらに**特殊麻酔症例のすべてを網羅します。**

②　「急性期に強い麻酔科医」を育てる独自の教育体制

手術室での麻酔管理にとどまらず、**集中治療部（ICU）を専任管理**している点が最大の強みです。

- **多角的指導:** 麻酔科指導医に加え、救急科専門医・集中治療専門医のサブスペシャリティを持つ上級医が在籍し、周術期から重症管理までシームレスに指導します。
- **高度な専門資格:** 心臓血管麻酔およびペインクリニックの専門医研修施設であり、将来のキャリアを見据えた高度な専門スキルの習得が可能です。
- **救急救命センターローテーション:** 希望者は当院救命センターを数ヶ月単位で回ることができ、より困難な救急症例への対応力を磨けます。

③　リサーチマインドの育成

専門医としての到達目標達成はもちろん、日々の臨床にリサーチマインドを持ち、学会発表や論文投稿がスムーズに行えるよう、論理的思考に基づいた学術指導を丁寧に行います。

④　SUBARU 関連施設としての徹底した「働き方改革」

私たちは、充実した研修には心身のゆとりが不可欠であると考えます。

- **余裕ある人員体制:** 常勤 10 名・非常勤 10 名以上の体制により、掛け持ち麻酔や過度な長時間勤務を排除しています。
- **コンプライアンスの遵守:** SUBARU（旧富士重工業）関連施設として、労働安全や勤務時間の管理を徹底。家族との時間やプライベートを大切にしながら、自己研鑽に励める労働環境を保証します。
- **充実の待遇:** 勤務条件および給与面についても、大企業関連施設ならではの十分な配慮を行っています。（詳細は当院ホームページを参照）

3.　専門研修プログラムの運営方針

本プログラムは、基幹施設である太田記念病院を中心に、栃木県立がんセンターや大学病院等の強力な連携施設群を活かし、4 年間で圧倒的な臨床能力と専門性を習得できるよう設計されています。

①　段階的かつ実践的なローテーション

- **1～2 年目（基礎・専門導入）** 基幹施設にて麻酔科の基礎を徹底。1 年目後半からは、栃木県立がんセンター等の連携施設で週 1 回の専門的指導を受け、多様な症例に触れます。

- **3 年目（サブスペシャリティ研鑽）** 自科管理の集中治療部（ICU）や、希望に応じた救命部でのローテーションを開始。さらにペインクリニック外来研修を並行し、急性期から慢性期まで幅広く学びます（進捗により 2 年目からの前倒しも可能）。
- **4 年目（仕上げ・地域貢献）** 前橋赤十字病院、獨協医科大学病院、栃木県立がんセンターのいずれかへ 3〜6 ヶ月出向し、高度救急や特殊症例の研鑽を積みます。目標症例数を達成後は、ICU やペインクリニックの重点研修も選択可能です。

② エキスパートによる直接指導

- **心臓血管麻酔・TEE:** 心臓血管麻酔専門医によるマンツーマンの経食道エコー（TEE）指導を行い、高度な周術期管理能力を養います。
- **学術・リサーチ:** 麻酔・集中治療関連の学会発表を積極的に支援し、論文執筆についても上級医が完遂まで丁寧に指導します。

③ 充実した教育・評価システム

- **カンファレンスの充実:** 毎朝の症例カンファレンス、週 1 回の症例検討会、月 2 回の勉強会を実施。さらに他科との合同カンファレンスや、プログラム全施設が参加する合同検討会を年 1 回開催します。
- **症例数の確実な達成:** 全ての専攻医が専門医取得に必要な特殊症例（小児・産科・心外等）を確実に経験できるよう、プログラム全体で症例配分を最適化します。
- **質の担保:** 慶應義塾大学病院を含む各連携施設の指導医で構成される「プログラム管理委員会」が、研修内容を常にモニタリングし、継続的な改善を図ります。

【研修実施計画例】

年間ローテーション表（あくまで一例です）

	1年目	**2年目**	**3年目**	**4年目**
A	太田記念病院 がんセンター(週1)	太田記念病院 がんセンター(週1)	太田記念病院 がんセンター(週1)	太田記念病院 獨協医科大学(3M)
B	同上	同上	同上	太田記念病院 前橋赤十字病院(3M)

週間予定表の例

	月	火〜金	土	日
午前	がんセンター	手術室	手術室(第1,3,5週のみ)	休み
午後	がんセンター	手術室	休み	

※オンコール（平日夜間、土日）、２時間程度の残り番（平日夜間）あり。免除可能。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

【太田記念病院】 認定病院番号 537

研修プログラム責任者： 矢島 聡

専門研修指導医：
矢島 聡 （麻酔、集中治療）
松本 晶平 （麻酔、集中治療）
小澤 拓郎 （麻酔、集中治療）
大島 正行 (麻酔、集中治療、心臓麻酔、ペイン)
高橋 佳奈子（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
山田 紅緒 （麻酔、集中治療）
前原 智 （麻酔、集中治療）
中田 翔 （麻酔、集中治療）

③ 専門研修連携施設

【栃木県立がんセンター】 認定病院番号 443

栃木県立がんセンターは人口約200万人の栃木県で、がん医療の中核を担う都道府県がん診療連携拠点病院です。悪性腫瘍手術に対する麻酔を幅広く経験する事が出来ます。中でも胸部外科手術の症例数は多く、分離肺換気の呼吸管理は十分に経験可能です。また、全身麻酔症例の術後1日は回復室に集められるので、術後管理への参加や自分の行った麻酔のフィードバックが容易です。1年目から週1回の勤務、 さらに4年目に地域医療連携として3か月から6か月の勤務の可能性があります。

研修プログラム責任者： 志賀 由佳

専門研修指導医：
志賀 由佳 (麻酔)
清水 かおり (麻酔)
大瀧 恵 (麻酔)
角谷 隆史 (麻酔)

【前橋赤十字病院】 認定病院番号 142

前橋赤十字病院は、555 床を備える高度救命救急センター等の指定病院です。年間 4,900 例以上の豊富な症例と拡充された手術環境を活かし、重症例や緊急手術を含む幅広い経験を積めます。連携施設や集中治療科とも協力し、地域医療を支える確かな知識・技術を備えた麻酔科専門医の育成を目的としています。

研修プログラム責任者：　柴田　正幸

専門研修指導医：　柴田　正幸（麻酔一般、心臓血管麻酔）
伊佐　之孝（麻酔一般）
佐藤　友信（麻酔一般）
齊藤　博之（麻酔一般、心臓血管麻酔）
増田　衛（救急）
菊池　悠希（麻酔一般）

【獨協医科大学病院】　認定病院番号　117

栃木県はもちろん北関東の医療の中心を担う大学病院。心臓外科をはじめ，あらゆる特殊症例の研修が可能です。ペインクリニックは全国でも有数の実績。4年目に連携病院として3か月から6か月の勤務の可能性があります。

研修プログラム責任者：　山口　重樹

専門研修指導医：
山口　重樹（麻酔・ペイン）
濱口　眞輔（麻酔・ペイン）
木村　嘉之（麻酔・ペイン）
藤井　宏一（麻酔・ペイン）
篠崎　未緒（麻酔・ペイン）
高橋　良享（麻酔・ペイン）
寺島　哲二（麻酔・ペイン）
白川　賢宗（麻酔・ペイン、緩和）
國分　伸一（麻酔・ペイン）
沼田　祐貴（麻酔・ペイン、心臓）
佐藤　雄也（麻酔・ペイン、心臓）
小松崎　誠（麻酔・ペイン、区域）
山下　雄介（麻酔・ペイン、心臓）
山中　恵里子（麻酔・ペイン、緩和）
知野　諭（麻酔・ペイン）
阿久津　和也（麻酔・ペイン）
清水　貴仁（麻酔・ペイン）
福田　裕也（麻酔・ペイン）
人見　俊一（麻酔・ペイン）

【慶應義塾大学病院】　認定病院番号　3

経皮的心臓弁膜症手術や臓器移植を含む様々な先進的手術あるいは種々の合併症を有する患者手術等、麻酔管理の質が問われる症例が数多くあり、同時に必要経験症例数をはるかに上回る各診療科の手術麻酔が経験できます。手術麻酔に加えて、集中治療、ペインクリニック、緩和医療や無痛分娩など幅広く研修の機会を提供しています。学会発表や論文執筆はもとより、研修プログラム終了後の進路を見据えた環境を整えています。

研修プログラム責任者：　山田　高成

専門研修指導医：

山田　高成（麻酔・ICU）
小杉　志都子（麻酔・ペイン）
壽原　朋宏（麻酔・ICU）
若泉　謙太（麻酔・ペイン）
寅丸　智子（麻酔・小児麻酔）
伊原　奈帆（ペイン・緩和）
鈴木　悠太（ICU）
生駒　祐介（ICU）
戸野　遼（心臓麻酔）
藤田　治人（周術期管理）
高井　琴子（周術期管理）
岡本　泰治（周術期管理・ICU）
御園生　与志（覚醒下手術管理）
増田　祐也(周術期管理･区域麻酔)
若宮　里恵(小児麻酔･周術期管理)
星野　麗子（周術期管理）
阪本　浩平（周術期管理）
細井　卓司（周術期管理）
小山　祐果（周術期管理）
関谷　由李（周術期管理）
加藤　英恵（周術期管理）
松沢　真奈（周術期管理）
森川　紗希（周術期管理）
三笠　裕美（周術期管理）

【国立病院機構　東京医療センター】　認定病院番号　221

東京医療センターは旧国立東京第二病院といわれた昭和43年から臨床研修指定病院に指定され、伝統的に医療従事者の教育研修に熱心な施設です。近年は地域との結びつきの強い急性期病院として、救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院・東京都災害医療拠点病院・地域医療支援病院などの指定を受けるとともに、高度先進医療にも取り組んでいます。そして当センターの理念『患者の皆様とともに健康を考える医療の実践』を実行すべく、技術とシステムの改修に加え、診療・教育・研究を通して医療の質の向上を目指している病院です。

麻酔科としても、2016年から麻酔科術前外来を開設、2020年からAPSチーム、2021年から和痛チーム、2026年から集中治療チームが発足し、術前から術後まで周術期診療の核となるべく様々な取り組みを行っています。専門医以上のスタッフが多く、若手から中堅そしてベテランまでがバランス良く存在していることも特徴のひとつです。どの年代層も常に新しい事を取り入れ進化する努力を怠らないようにしています。臨床のみでなく、学会発表、論文投稿指導にも力をいれています。また医局の枠にとらわれず、約20年にわたって独自に麻酔科専門医を養成している歴史があり、国内外で活躍する当院麻酔科研修を終えた数多くの麻酔科医と交流する機会があるのも魅力の一つです。

研修プログラム責任者：　吉川　保

専門研修指導医：

小林　佳郎（麻酔）
吉川　保（麻酔・ペイン）
長田　大雅（麻酔・ICU）
櫻井　裕教（麻酔・ICU）
森　庸介（心臓麻酔・ICU）
安村　里絵（心臓麻酔・区域麻酔）

加藤　奈々子（産科麻酔）　　茂田　宏恵（麻酔）
吉武　美緒（麻酔）

専門医：
中川　布有加（麻酔）　　肌附　里乃（麻酔）
田中　浩平（麻酔）　　伊瀬谷　沙織（麻酔）

5.　専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医採用を希望される方は、日本専門医機構に定められた方法により、期限（2026年９月頃を予定）までに応募してください。

②　お問い合わせ先

本研修プログラムへのお問い合わせは、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能です。

ＳＵＢＡＲＵ健康保険組合太田記念病院　人事課　山田いづみ
〒373-8585 群馬県太田市大島町 455番地１
TEL 0276-55-2200 Fax 0276-55-2205
E-mail　<i.yamada.03211@ota-hosp.or.jp>
Website　http://dr.ota-hosp.or.jp

6.　麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになります。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師を目標とします。

I.　十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
II.　刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
III.　医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度，習慣
IV.　常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成します。

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成します。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できませんが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができます。

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得します。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成します。

【専門研修 1 年目】

- 手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA-PS 1～2 患者の手術に対して、指導のもと安全に麻酔・周術期管理を行う。
- 心臓外科手術麻酔、特殊な手術の麻酔を経験する。
- 医療倫理，医療安全，院内感染対策についての講習会に出席する。
- 他科の医師、コメディカルスタッフと円滑に意思疎通を図る。
- 勉強会での発表を行う。

【専門研修２年目】

- 質の高い基本手技、ASA-PS１～２患者の麻酔・周術期管理を上級医の監督のもと単独で行う。
- ASA-PS 3 患者の手術や緊急手術に対し、指導のもと安全に麻酔・周術期管理を行う。
- 特殊な手術の麻酔（心臓血管手術を含む）を指導のもと行う。
- 説明外来において、患者を評価し、麻酔・周術期管理についてわかりやすい説明を心がける。
- 術後疼痛管理チームに参加し、意見交換を行う。
- 集中治療の概要が理解する。
- 学術集会で発表を行う。

【専門研修３年目】

- ２年目で習得した手技、知識をもとに質の高い麻酔・周術期管理を上級医の監督のもと単独で行う。
- ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。
- 手術室運営に参加し、マネージメントを研修する。
- 学術論文の構成を始める。

【専門研修４年目】

- ３年目の経験をさらに発展させ、社会に貢献する麻酔科医のあり方を研鑽する。
- サブスペシャリティーの専門医取得へ向け研修する。
- 学術論文を発表する。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- **研修実績記録**
  専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録します。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡されます。
- **専門研修指導医による評価とフィードバック**
  研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックが行われます。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させます。
- **他職種による勤務評価**
  太田記念病院内の定めで行われ、年次ごとに形成的評価としてフィードバックされます。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修４年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、以下の項目において各専攻医が専門医としてふさわしいレベルに到達したかを総合的に評価し、総合的に判定します。

I. 専門知識

II. 専門技能
III. 医師としての学問的姿勢、倫理性、社会性、適正等

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が**研修カリキュラムに定めた到達目標,経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか**が修了要件となります。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価をもとに修了判定が行われます。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する必要があります。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行います。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、プログラム管理委員会に図り、自律的に研修プログラムの改善を図ります。

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行います。
- **出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止**は、1 回までは研修期間に**含まれます。**
- **妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合**は、連続して 2 年迄休止を認めることとしますが、**休止期間は研修期間に含まれません。**研修プログラムの休止回数に制限はなく、**休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、休止期間以外の研修期間はすべて認められ**、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなします。
- **2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。**ただし、**地域枠コースを卒業し**医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認めます。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする必要があります。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると

判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告します。

③　研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができますが、移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、**日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る**必要があります。
- 麻酔科領域研修委員会は、移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ、移動を認めます。

13.　地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての前橋赤十字病院、栃木県の中核病院である獨協医科大学病院が含まれ、群馬県・栃木県にわたる地域研修が可能です。

とくに地域がん医療の拠点である栃木県立がんセンターは、麻酔科医師数に比して手術件数が多い傾向があり、そこで一定の期間麻酔研修を行うことで当該地域における麻酔診療のニーズを理解する場として非常に重要な連携施設です。当院からの専門研修指導医の派遣も含め、連携施設での専門研修指導の充実を図ります。

14.　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

- 研修期間中に在籍する研修施設の就業規則に基づきます。
- 専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。
- プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。